

香川県埋蔵文化財センター年報

平成 23 年度

2012.9

香川県埋蔵文化財センター

はじめに

香川県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査及び研究を行なうとともに、その保存と活用を図り、県民の文化的向上に資するため、昭和62年11月1日に設置されました。

これにあわせて、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが設立され、埋蔵文化財調査事業などを実施しておりましたが、平成16年3月31日付で解散し、平成16年度から当センターが事業を行い、現在に至っています。

平成23年度は、国道11号大内白鳥バイパス建設、善通寺病院統合に伴う旧練兵場遺跡、県道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査及び過年度発掘の整理、報告書刊行をはじめ、出土品の保管・整理、普及啓発事業、緊急雇用創出基金事業、讃岐国府跡探索事業などを実施し、これらの調査によって得られた多くの成果等をもとに、展示や、広報誌・研究紀要の刊行、学校での出前授業や考古学体験講座を行い、埋蔵文化財の保護意識の普及・啓発に努めました。

本書は、これらの平成23年度に実施した事業内容をまとめたものであります。本書が地域の歴史や文化への理解の一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、ご指導、ご協力をいただいた関係各位にお礼を申し上げますとともに、今後とも当センターの活動に皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年9月

香川県埋蔵文化財センター

所長 藤好史郎

目 次

I 組織・施設・決算	
1. 香川県埋蔵文化財センターの組織	1
2. 施設の概要	2
3. 決算の状況	2
II 事業概要	
1. 埋蔵文化財調査事業	
事業概要	3
城泉遺跡	5
旧練兵場遺跡	7
上東原遺跡	15
太田原高州遺跡	17
多肥北原西遺跡	19
北岸南遺跡	22
2. 普及・啓発事業	
1 展示	25
2 現地説明会・地元説明会	26
3 講師の派遣	26
4 坂出市立府中小学校との連携事業(よろこび学習)	27
5 夏休み子どもミュージアム	28
6 考古学講座	28
7 文化ボランティア活動	28
8 四国新聞への連載	28
9 資料の貸出・利用	29
10 職場体験学習・インターンシップ	29
11 刊行物	29
12 ホームページ	29
3. 緊急雇用創出基金事業	30
4. 讃岐国府跡探索事業	31
III 讃岐国府跡探索事業に伴う調査報告	34

挿図目次

第1図 発掘調査遺跡位置図·····	4	太田原高洲遺跡	
城泉遺跡		第10図 遺跡位置図(1/25,000)·····	17
第2図 遺跡位置図(1/25,000)·····	5	第11図 区画墓群平面図(1/250)·····	18
旧練兵場遺跡		多肥北原西遺跡	
第3図 遺跡位置図(1/25,000)·····	7	第12図 遺跡位置図(1/25,000)·····	19
第4図 調査区割図(1/2,000)·····	12	第13図 遺構配置図(1/800)·····	21
第5図 3AトレンチSB3001周辺平面図·····	13	北岸南遺跡	
第6図 SB3001と県内における柱建物との比較·····	14	第14図 遺跡位置図(1/25,000)·····	22
上東原遺跡		讃岐国府跡探査事業	
第7図 遺跡位置図(1/25,000)·····	15	第15図 各用水路の灌漑範囲·····	34
第8図 調査区割図(1/1,500)·····	16	第16図 林田町の古地名·····	35
第9図 主要遺構配置図(1/400)·····	16	第17図 調査地位置図(1/25,000)·····	36

写真目次

城泉遺跡		太田原高須遺跡	
写真1 滑石管玉・白玉·····	6	写真21 区画墓1(西端部)·····	17
写真2 古墳時代中期・終末期川跡 土層断面·····	6	写真22 水晶製小玉·····	17
写真3 刀形木製品出土状況·····	6	多肥北原西遺跡	
写真4 挖立柱建物および溝跡·····	6	写真23 切り合い関係のある溝群·····	20
旧練兵場遺跡		写真24 挖立柱建物跡SB01·····	20
写真5 弥生時代挖立柱建物全景·····	7	北岸南遺跡	
写真6 弥生時代低地帯遺物出土状況·····	7	写真25 I区SB01全景·····	22
写真7 弥生時代堅穴住居跡全景·····	8	写真26 I区SB02全景·····	22
写真8 弥生時代壺棺出土状況·····	8	写真27 I区SB02地鎮遺構·····	23
写真9 古代の挖立柱建物群全景·····	8	写真28 I b区2面SD06-07全景·····	23
写真10 波板状遺構小埋・土器片出土状況·····	9	写真29 II区全景·····	24
写真11 波板状遺構全景·····	9	緊急雇用創出基金事業	
写真12 1EトレンチSR03全景·····	10	写真30 出土品の洗浄作業·····	30
写真13 2EトレンチSK2004全景·····	10	写真31 出土品の洗浄作業·····	30
写真14 1HトレンチSB1010(SP1092)断面·····	10	讃岐国府跡探査事業	
写真15 1Gトレンチ全景·····	11	写真32 水利調査風景·····	34
写真16 2CトレンチST01~03全景·····	11	写真33 SB01·····	37
写真17 3AトレンチSB3001(S P 3008・3009)全景·····	11	写真34 SD01と整地層·····	37
写真18 3AトレンチSB3001全景·····	12	写真35 石帶(巡方)·····	37
上東原遺跡		写真36 I区遺構検出状況·····	38
写真19 2区挖立柱建物群(弥生時代中期後葉)·····	15	写真37 2区遺構検出状況·····	39
写真20 9区大溝(弥生時代前期末~古代)·····	15		

表目次

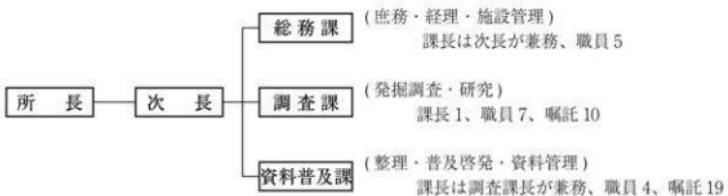
第1表 職員一覧·····	1	第11表 センター外展示一覧·····	25
第2表 発掘調査決算·····	2	第12表 現地説明会・地元説明会一覧·····	25
第3表 整理・報告決算·····	2	第13表 体験講座への講師派遣一覧·····	26
第4表 管理運営費等決算·····	2	第14表 学校への講師派遣一覧·····	27
第5表 発掘調査遺跡一覧·····	3	第15表 講演等への講師派遣一覧·····	27
第6表 遺跡の概要一覧·····	3	第16表 坂出市立府中小学校との連携事業一覧·····	27
第7表 整理・報告遺跡一覧·····	4	第17表 夏休み子どもミュージアム実施事業一覧·····	28
第8表 刊行報告書一覧·····	4	第18表 考古学講座一覧·····	28
第9表 展示一覧·····	25	第19表 資料貸出・利用一覧(数字は件数)·····	28
第10表 入館者数一覧·····	25	第20表 場職体験学習一覧·····	29

* 地図は国土地理院地形図を使用しました。

I 組織・施設・決算

1. 香川県埋蔵文化財センターの組織

(1) 粗 織



(2) 職 員

所 屬	職 名	氏 名
所長		藤好史郎
次長		眞鍋正彦
總務課	課長(兼務)	眞鍋正彥
	副主幹	林文夫
	主任	古市和子
	主任	中川美江
	主任	高木秀哉
	主任	広瀬健一
	課長	森格也
	主任文化財専門員	西村尋文
調査課	文化財専門員	森下友子
	文化財専門員	山元素子
	文化財専門員	藏本晋司
	文化財専門員	佐藤竜馬
	文化財専門員	小野秀幸
	文化財専門員	乗松真也
	嘱託	砂川哲夫
	嘱託	白木亨
	嘱託	塙治千佳子
	嘱託	東潤愛
	課長(兼務)	森格也
	主任文化財専門員	木下晴一
資料普及課	文化財専門員	山下平重
	文化財専門員	宮哲治
	文化財専門員	信里芳紀
	文化財専門員	

第1表 職員一覽

2. 施設の概要

(1) 所在地 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4

(2) 敷地面積 11,049.23m²

(3) 建物構造・延床面積

①本館	鉄筋コンクリート造・2階建 (一部鉄骨造・平屋建)	1,362.23m ²
②分館	鉄骨造・2階建	337.35m ²
③第1収蔵庫	鉄骨造・2階建	1,525.32m ²
④第2収蔵庫	鉄骨造・3階建	2,040.33m ²
⑤車庫	鉄骨造・平屋建	29.97m ²
⑥自転車置場	鉄骨造・平屋建	25.00m ²

3. 決算の状況

(単位:円)		
原因者	遺跡名	決算
善通寺病院	旧練兵場遺跡	52,403,433
国土交通省	城泉遺跡	53,060,861
道路課	上東原遺跡	32,341,331
	多肥北原西遺跡	18,666,811
	太田原高州遺跡	23,104,753
	城泉遺跡	2,287,807
	北岸南遺跡	29,641,391
	合計	211,506,387
(単位:円)		
原因者	遺跡名	決算
善通寺病院 (国立病院機構本部)	旧練兵場遺跡	71,564,523
道路課	西白方瓦谷遺跡	14,202,680
	東坂元秋常遺跡	14,147,467
	多肥北原遺跡	10,014,292
高校教育課	鹿伏・中所遺跡	2,887,772
	合計	112,816,734

第3表 整理・報告決算

第2表 発掘調査決算

(単位:円)		
	管理運営費	8,310,610
管理運営費等	職員給与費(※)	147,952,774
	讃岐国府跡	872,850
	探索事業	
	小計	157,136,234
緊急雇用 対策事業	学校及び地域等における 出土品の活用促進	2,909,153
	合計	160,045,387

※受託事業分
60,995,297 を再掲

第4表 管理運営費等決算

II 事業概要

1. 埋蔵文化財調査事業

事業概要

調査課は、3班体制で国道バイパス建設、普通寺病院統合、県道整備等に伴う6遺跡の発掘調査を行うとともに、讃岐国府跡探索事業に係る発掘調査を1班が担当した。資料普及課は、3班体制で普通寺病院統合及び県道建設に伴う4遺跡の整理及び報告と、高校建設に伴う1遺跡の報告を行った。

発掘調査では、普通寺病院統合事業に伴う旧練兵場遺跡の調査を2班体制で実施し、平成21年度からの新病院の本体部分の発掘調査が終了した。これに加えて新病院の附帯工事に伴う発掘調査を年度途中から急遽対応することとなり、資料普及課の職員が発掘調査を実施したことが特筆される。このほか県道建設に伴う発掘調査では工事工程や用地買収状況との関係で、調査する遺跡と工程の変更を伴いながらの調査となった。

整理・報告は、引き続き普通寺病院統合事業に伴う旧練兵場遺跡の整理を2班体制で実施した。平成18年度から実施してきた鹿伏・中所遺跡については、最終の報告書を刊行し、事業が完了した。

原因者	事業名	遺跡名	所在地	調査面積（m ² ）	調査期間
国土交通省	国道11号大内白鳥バイパス建設	城泉遺跡	東かがわ市白鳥	4,486	6月～3月
普通寺病院	普通寺病院統合	旧練兵場遺跡	普通寺市仙遊町	1,320	4月～8月 11月～2月
道路課	太田上町志度線建設	上東原遺跡	高松市鹿角町	2,707	4月～9月
		太田原高州遺跡	高松市太田上町	1,168	10月～1月
		多肥北原西遺跡	高松市多肥上町	1,213	2月～3月
	国道318号建設	城泉遺跡	東かがわ市白鳥	200	6月～3月
	国道438号建設	北岸南遺跡	丸亀市飯山町	2,100	9月～1月
		合計		13,194	

第5表 発掘調査遺跡一覧

遺跡名	遺跡の概要	主な遺構・遺物
城泉遺跡	弥生時代～古代の河川跡 古代～中世の集落跡	弥生時代の河川跡、古代と中世の掘立柱建物跡 弥生土器、土師器、須恵器、施釉陶器、木製品、管玉、白玉、耳環、有孔円盤、石製紡錘車
旧練兵場遺跡	弥生時代から中世にかけての集落跡 古代の用水路跡	繩文時代の土坑、河川跡 弥生時代の竪穴建物跡群、掘立柱建物跡群、河川跡、土器棺 古代の掘立柱建物跡、溝状遺構 繩文土器、弥生土器、石器、土師器、須恵器
上東原遺跡	弥生時代の集落跡、水路跡 古墳時代の集落跡	弥生時代の掘立柱建物跡 弥生時代の溝状遺構 古墳時代の掘立柱建物跡 弥生土器、石器、土師器、獸骨（馬）

太田原高州遺跡	弥生時代の墳墓、河川跡 古代の集落跡	弥生時代の方形周溝墓 古代の掘立柱建物跡 弥生土器、土師器、須恵器、水晶玉、菅玉
多肥北原西遺跡	弥生時代の流路 古代の集落跡	弥生時代の流路跡 古代の掘立柱建物跡、溝状遺構。 弥生土器、土師器、須恵器。
北岸南遺跡	弥生時代の水路跡 中世の集落跡	弥生時代の水路跡 古代と中世の掘立柱建物跡 弥生土器、石器、土師器、須恵器

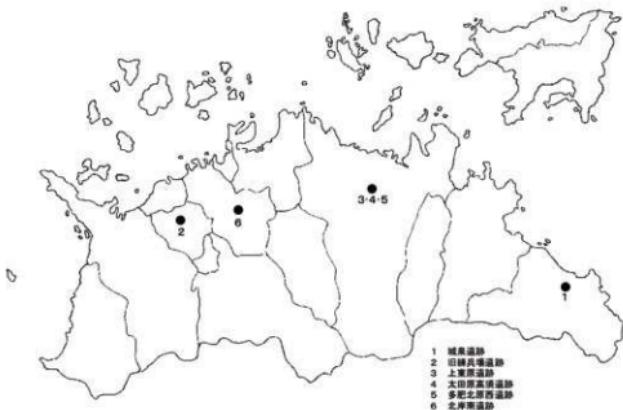
第6表 遺跡の概要一覧

原因者	遺跡名	所在地	整理期間
善通寺病院（国立病院機構本部）	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	4月～3月
道路課	西白方瓦谷遺跡	仲多度郡多度津町	4月～7月
	多肥北原遺跡	高松市多肥上町	8月～10月
	東坂元秋常遺跡	丸亀市飯山町	11月～3月
高校教育課	鹿伏・中所遺跡	本田郡三木町	平成22年度

第7表 整理・報告遺跡一覧

書名
県道丸亀詫間豊浜線（多度津西工区）緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
西白方瓦谷遺跡
県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥北原遺跡
高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊 鹿伏・中所遺跡IV
讃岐国府跡探索事業 平成21・22年度 地形・地名調査報告

第8表 刊行報告書一覧



第1図 発掘調査遺跡位置図

城泉遺跡

城泉遺跡は、国道11号大内白鳥バイパス建設工事に伴い発掘調査が実施されたもので、調査期間は平成23年6月～平成24年3月、調査面積は4,686m²である。遺跡は東かがわ市白鳥の湊川東岸に位置し、湊川によって形成された河岸段丘上の平坦面に位置する。この段丘上には、古くに埋没した南から北へ延びる旧河道とそれに挟まれた微高地があり、調査地はそれらを東西に横断している。東側にも城泉遺跡が広がり、昭和41年の国道318号道路工事に伴う調査の際に古墳時代の土師器小型丸底壺や高杯が大量に出土している。西側には平成22年度に調査を行った田中遺跡がある。

調査の結果、弥生時代～古代の溝跡と川跡、古墳時代中期・終末期の川跡、古代～中世の掘立柱建物跡・溝跡などが検出された。

調査地の東端付近の微高地上では、幅約2m、深さ80cmの溝を検出した。東側の丘陵の裾部分に沿うように南から北へ流れる。古墳時代中期の包含層の下面で検出したことや、わずかに出土した遺物から弥生時代終末期の灌漑用水路と考えられる。

この灌漑用水路が埋没した後に堆積した包含層上では、古墳時代中期前半の土師器小型丸底壺、高杯などがほぼ完全な形で集中して出土し、それに混じって滑石製管玉（2点）・白玉（3点）が出土した。明確な遺構は伴わないが、出土遺物と出土状態から何らかの祭祀の場であった可能性が考えられる。この場所は、昭和41年の国道318号建設の際に多量の土師器が出土した場所の西に隣接しており、密接な関連があると思われる。

この微高地の西側では、最大幅30m、最深部15mの川跡を検出した。この川跡は古墳時代中期以前に形成され、古墳時代中期末と古墳時代終末期にこれを切り込む流路が形成され、平安時代頃にかけて完全に埋没したと考えられる。

古墳時代中期後半の流路は砂層・シルト層と粘土層が交互に堆積し、流・滞水を繰り返しながら堆積した様子が窺える。この流路からは特に西岸を中心に土師器（壚、甕、高杯、杯など）、須恵器（杯身、杯蓋、高杯、把手付椀など）が多く出土した。これらは完全な形のものが多く、遺跡付近に想定される集落から川跡の西岸へ投棄されたと考えられる。ここからは大量の木片が出土し、その中には角材、板材、杭などの木製品や多量の桃の種子類が出土した。

古墳時代中期後半の川跡を切り込む古墳時代終末期の川跡からも多量の土師器・須恵器が完全



第2図 遺跡位置図 (1/25,000)

に近い形で出土した。このうちの多くは古墳時代中期後半のものであり、終末期に下るものはやや数が少ないとから、中期後半の流路を切り込む終末期の流路が形成されるときに多量の土器が混入したと考えられる。この流路からも多量の木片や桃などの種子類とともに木製品が多く出土した。付け札状木製品や、横樋・組み合わせ式鋤・鋤の柄などの生産用具、刀形木製品、剣形木製品、かがり火に使われたと考えられる先端が炭化した木片が多く出土した。刀形などの木製品やかがり火に使われたと考えられる木片は水に関わる祭祀に使用されたと考えられるもので、碧玉製管玉や石製紡錘車、有孔石製品、銅芯金銅張耳環などの出土と合わせ、水にまつわる何らかの祭祀が行われていたと考えられる。

古墳時代終末期～古代の遺物包含層の上面では延長約72mにも及ぶ溝跡を検出した。この溝跡は現在の地割とほぼ同じ方向で、遺物量は非常に少ない。古代以降の幹線水路と考えられる。

川跡の西側の微高地からは、現地割に沿う東西方向の溝跡を4条と掘立柱建物を7棟検出した。いずれも古代の遺物包含層を切り込んでおり、時期は古代を遡るものではなく、古代～中世の間に収まるものと思われる。

川跡の調査で出土した刀形木製品2点、剣形木製品1点、付け札状木製品1点について、出土遺物が貴重でかつ傷みやすいことを考え、保存処理業務を委託し、高級アルコール法により保存処理を実施した。



写真1 滑石製管玉・臼玉



写真2 古墳時代中期・終末期川跡 土層断面



写真3 刀形木製品出土状況



写真4 掘立柱建物および溝跡

きゅうれんべいじょういせき 旧練兵場遺跡

新病院の本体部分の調査

今年度の調査区は、国立病院機構善通寺病院敷地の北西部の平成13・14年度調査区の西側、平成22年度調査区の北側に位置する。近世以降の旧耕作土及び造成土下で遺構面が検出され、基本的に包含層等は認められない。また、調査区中央付近で東西方向に石積みと溝状遺構SD61を伴った、近世から近代初頭ころの耕地区画とみられる比高20cm程度の段差を検出した。遺跡周辺の地割りの検討から、条里型地割りの坪界に合致する可能性が高い。

さて、検出された遺構には、弥生時代中期の掘立建物1棟と低地帯、同後期後半から終末期の竪穴住居1棟と土坑、溝状遺構、壺棺墓、古墳時代後期の溝状遺構、古代の掘立柱建物数棟と溝状遺構、波板状遺構などがある。

弥生時代中期の掘立柱建物は、桁行3間(5.53m)、梁間1間(2.58m)、床面積14.3mの東西棟の側柱建物である。柱穴掘り方は一辺1.0m程度の規模を有する。調査区東側微高地に展開する同時期集落の西縁部の建物遺構である。

低地帯は、調査区中央部と北端部で東西方向に検出された。概ね中期を中心に埋積が進行するが、古代までは微凹地として残され、最終的には古代の集落形成時に、盛土などの造成を経て、平準化されたと考えられる。なお、低地帯は人力により掘り下げを行い、ほぼ完形の土器を含む、投棄単位が復元可能な良好な一括資料を得ている。

竪穴住居SH03は、弥生時代終末期前後を中心とする5.6m×5.3mの方形住居で、一部古墳



第3図 遺跡位置図(1/25,000)



写真5 弥生時代掘立柱建物跡全景



写真6 弥生時代低地帯遺物出土状況

時代以降の溝状遺構により攪乱を受ける。数面の床面がみられ、比較的長期にわたり継続して使用されたようだ。ヤリガンナとみられる鉄器片が出土した。

壺棺墓 SK10 は、堅穴住居の西約 7.3 m の位置に単体で検出された。副葬品は出土していない。土器内埋土の水洗選別をおこない、数点の歯が出土した。

調査区南端部で検出した、1 棟の総柱建物を含む掘立柱建物群は古代に遡り、昨年度調査した集落域の北端部に相当する。建物周辺からは、数個体分の縁軸陶器片が出土した。

既述した段差の北側に位置する大型溝 SD60 は、条里型地割りの坪界溝とみられる。西寄りの溝底面で、径 0.8 ~ 1.4 m の土坑を検出した。出水状遺構の可能性も考えられる。開削時期は古代に遡ることは確実だが、開削・埋没などの詳細な時期は整理を待ちたい。古

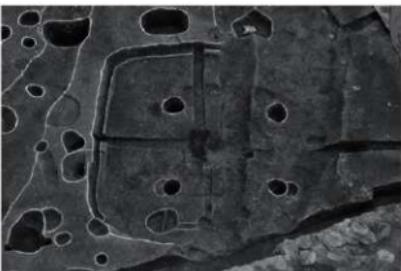


写真7 弥生時代堅穴住居跡全景



写真8 弥生時代壺棺出土状況



写真9 古代の掘立柱建物群全景

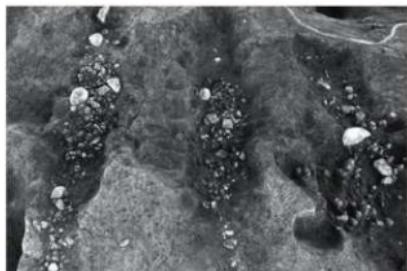


写真 10 波板状遺構小礫・土器片出土状況

代に遡る柱穴の分布は本溝を北限とし、集落域の北限を区画する機能も想定される。

波板状遺構 SD59 は SD60 に南端部を切られる。条里型地割りに合致し、直線状に調査区を横断し、延長約 10 m を検出したが、東方向への延長は不明である。遺構底面には、粒径 2 ~ 4 cm 程度の小礫や土器細片が敷き詰められ、その上面はわずかに曲面状を呈する。路床構造痕の可能性が高いが、南北に SD55・60 といった後出する溝状遺構が掘り込まれ、側溝に相当する遺構は確認されず、断定するまでには至らなかった。本県内の類似遺構と比して、非常に丁寧かつ入念な施工がなされており、道路遺構とすれば、重量物の搬送など、遺跡周辺にあって重要な位置を占めていた可能性も考えられる。

なお、6月11日には3~4区の弥生時代の竪穴住居及び掘立柱建物を中心に現地説明会を実施し、約30名の参加者があった。翌6月12日には、大阪府高齢者大学校受講生ら21名が遺跡を見学した。いずれの参加者も、熱心にメモを取り、質問するなど、関心の高さがうかがわれる。

新病院の附帯工事に伴う調査

調査対象は、新病院本体に伴う電気・ガス等の配管敷設や防火水槽設置に伴う付帯施設の予定地であり、平成13年度から平成23年度上半期の調査地周辺におけるトレンチ調査が主体となる。また、詳細な調査範囲については、現地において原因者や施工業者を交えた断続的な調整を行った結果、413m²となった。また、3 A トレンチで確認された大型建物の規模を確定することを目的として、トレンチ東側において 20m²の確認調査を実施した。

縄文時代

1E トレンチで弥生時代以降の基盤層となるIV層（黄褐色粘土）の中位で縄文時代後・晩期に遡る旧河道（SR03）を確認した。2E トレンチでは、同じくIV層内の上位で、縄文時代後期と



写真 11 波板状遺構全景

推定される土坑（SK2001）を検出した。IV層の堆積の単位は、粒度から大きく上下2層に大別される。IV層下層は、砂礫層（V層）上面から連続する上方細粒化の過程が追えるが単位であり、IV層上位は再び堆積物が粗粒化したのち上位に移るに従い細粒化する。SR03や2Eトレーニング SK2004は、IV層上位と下位の不整合面から形成されていることを確認したが、このIV層上・下層間には、古土壤が存在していない。本遺跡が扇状地の扇央部に位置することを考慮すると、IV層上層の堆積に伴い、流出したと考えられよう。

SK2004は幅1.5m、長さ25m以上の大型土坑である。埋没土は、粗砂・中砂を多く含み、擾乱を受けた古土壤とみられるシルト・粘土から成る。上下層との不整合が著しいことから、人為的に形成された遺構であると判断できる。出土遺物には、土器・サヌカイト片がみられるが詳細な時期決定には至らない。周辺の既往調査の結果から推定して、縄文時代後期に帰属する可能性が高い。

弥生時代

1Gトレーニングでは、弥生時代後期前葉に比定される大型掘立柱建物（SB1010、約42m²）や布掘建物（SB1012）を確認した。SB1010は、26次調査地を含めた復元では、床面積が約42m²に達する大型建物となる。また、弥生時代中期後半期の掘立柱建物との比較では、柱穴規模や構造、床面積を大きく違えている。弥生時代後期初頭から急増する他地域からの搬入・模倣土器や銅鏡と合わせて、一見継続的にみえる大規模集落の変質を示す資料として重要である。また、1Gトレーニング付近が当該期に特殊な建物が集合するゾーンであった可能性も指摘できる。

2Cトレーニングでは、挿入方向を揃え3基並ぶ土器棺墓群（ST01～03）を検出した。いずれも、



写真12 1Eトレーニング SR03全景 1Eトレーニング



写真13 2Eトレーニング SK2004全景



写真14 1Hトレーニング SB 1010 (S P 1092)断面

棺蓋に大型鉢、棺身に大型壺を転用するもので、弥生時代後期後半古段階の所産と推定できる。顕著な時間差は見出しづらい。本トレンチに隣接する12・19次調査においても土器棺墓が多く検出されていることからみて、集落全体の中でもやや大きな土器棺墓群を形成する可能性が高い。今後同時併存する住居群との関係性の整理が必要である。

古代

3Aトレンチ南部で検出した大型建物(SB3001)は、床面積が約50.7m²の総束柱建物である。建物主軸は、座標北から8°東偏するもので、真北方位は採らない。柱穴の裏込土には、古墳時代後期前葉の須恵器蓋杯片や土師器甕を伴い、7世紀中葉(TK217型式併行期)以降開削の東西方向の大溝(SD2010)に切られる。これらの出土遺物や遺構の先後関係から、6世紀中葉から7世紀中葉の年代が想定できるが、総束柱構造である点を考慮すると、7世紀前葉から中葉の年代を想定しておいた方がよいだろう。総束柱構造の大建物は坂出市下川津遺跡SBⅢ65(8世紀、床面積45m²)が知られるが、本建物は時期的に遡及するだけではなく、讃岐国府跡3次調査の大型総柱建物などの古代を含めた既往調査の総柱建物の中でも、最大の床面積をもつ。SD2010の年代観次第では、時期的に下る可能性を孕むが、立評期に關係した構築時期については、様々な問題を提起することとなる。周辺に同時併存する遺構には、2Eトレンチの



写真15 1Gトレンチ全景



写真16 2CトレンチST01～03全景



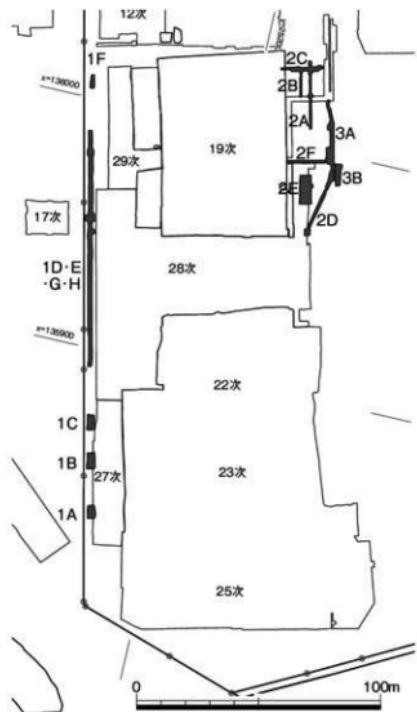
写真17 3AトレンチSB3001(SP3008・3009)全景

SD2006（建物西側）、3A トレンチ SD3005（建物北側）があり、区画溝を構成する可能性が高い。今後の区画内部の調査（平成 25 年度）が進めば、その妥当性も検証されることであろう。

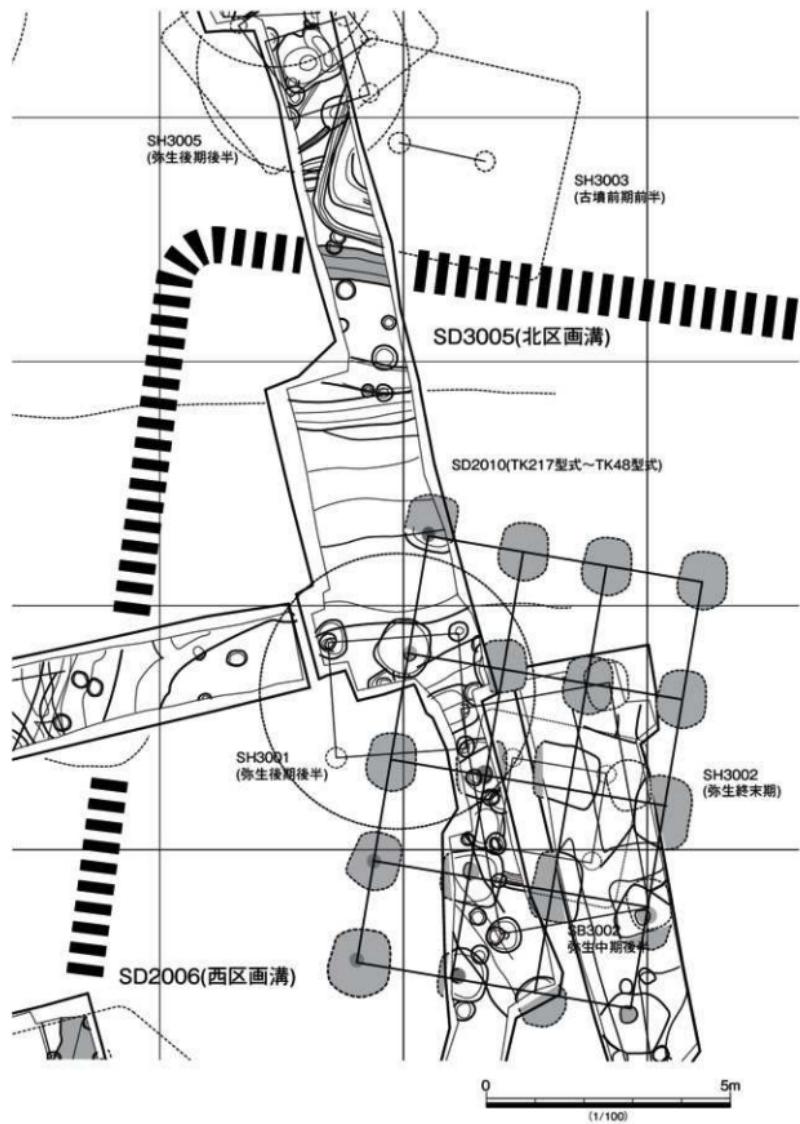
以上、小規模な調査ではあったが、既往調査の所見を補強する資料や、古代の総束柱構造の大規模掘立柱建物などを確認するなど、大きな成果を挙げることできた。



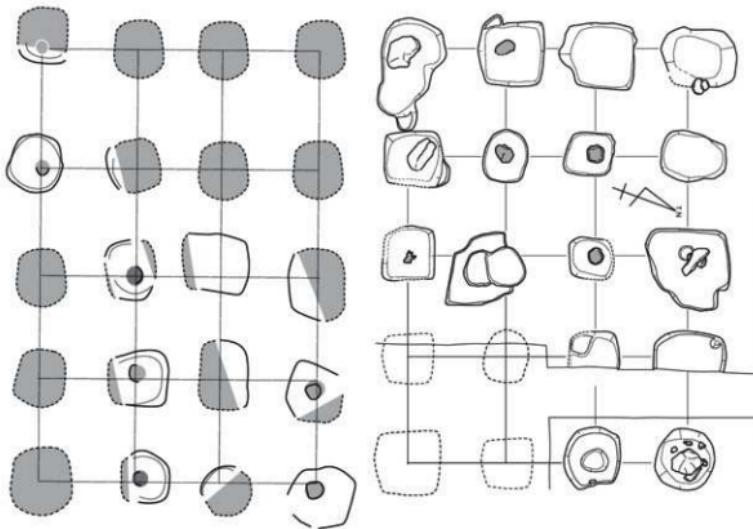
写真 18 3A トレンチ SB3001 全景



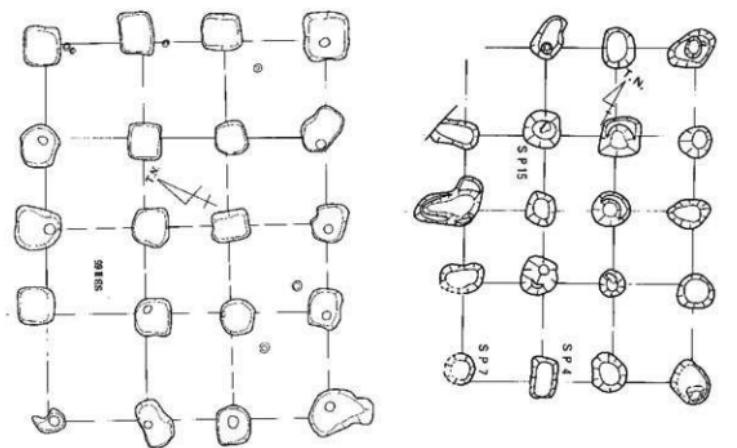
第 4 図 調査区割図 (1/2,000)



第5図 3A トレンチ SB3001 周辺平面図



旧練兵場遺跡SB3001(～7世紀前葉) 床面積50.7m² 講岐國府跡3次調査大型建物1(8～9世紀?) 床面積50m²



下川津遺跡SBIII65(8世紀) 床面積44.7m²

川津一ノ又遺跡IVSB001F(8世紀～) 床面積32m²



第6図 SB3001と県内における総柱建物との比較

かみひがしさらいせき 上東原遺跡

上東原遺跡は、平成18年度に香川県教育委員会によって1次調査が実施された。2次調査となる今回の調査では、弥生時代中期後葉の掘立柱建物・古墳時代後期の掘立柱建物・弥生時代前期末～古代の大溝、古代末～中世前半の柱穴群などを確認した。

調査対象地の東部では弥生時代中期後葉の掘立柱建物5棟を検出した。面積は10.5～13.6m²である。また、掘立柱建物1棟に近接して平面形が長楕円形の土坑を検出した。この土坑は、弥生時代中期後葉の土器とともに焼土や炭化物を含み、2基の柱穴に挟まれることから、竪穴住居の中央土坑の可能性がある。とすれば、本遺跡では、掘立柱建物群に少数の竪穴住居（可能性があるのは1棟のみ）が付随する集落構成となる。

調査対象地西部では、南東から北東へと流下する大溝を検出した。大溝は3層に大別され、下層は暗褐色系のシルト質粘土・粘土層を主体とする堆積層である。この層からは弥生時代前期末から後期後半の遺物が出土する。下位の一部が埋め戻しのブロック土を含む中層は弥生時代終末期、上層は古代である。この大溝に接続する溝と、調査地外で合流すると思われる溝とともに弥生時代後期後半の遺物を含む。大溝は弥生時代前期末に掘削され、後期後半にはこの大溝を介した水路網が機能していたようだ。

大溝各層の花粉分析業務を委託した。また、大溝出土の獸骨の鑑定を熊本大学石丸恵利子氏に依頼した。



写真19 2区掘立柱建物群（弥生時代中期後葉）

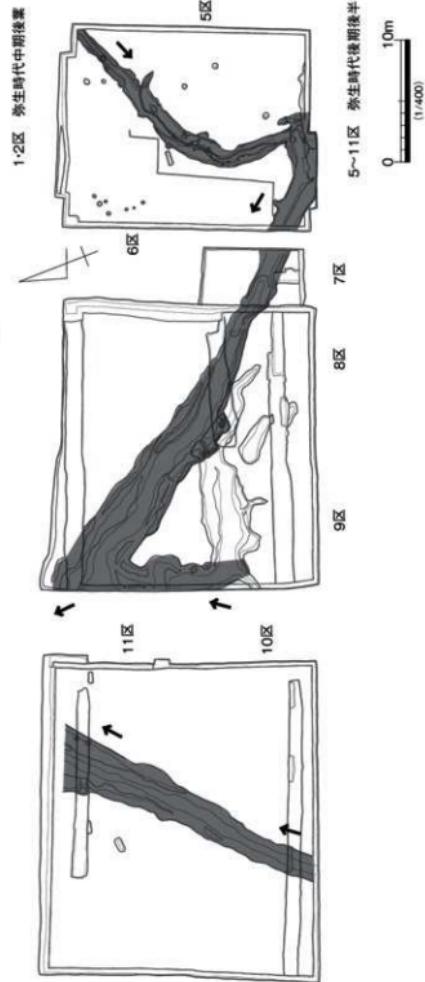
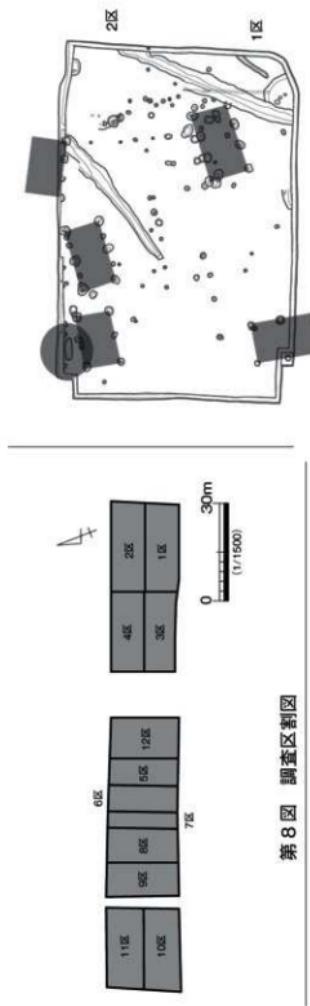


写真19 2区掘立柱建物群（弥生時代中期後葉）



写真20 9区大溝（弥生時代前期末～古代）

第8図 調査区割図



第9図 主要構造配置図 (1/400)

太田原高洲遺跡

太田原高州遺跡の調査は、平成23年度の1次調査に引き続いて2次調査となる。今回の調査では弥生時代中期～後期初頭の区画墓群、7世紀の溝、8世紀の掘立柱建物群などを検出した。

調査対象地東部で確認した区画墓群は4基、高松市教育委員会による3次調査と合わせると5基となる。このうち、全体を検出した区画墓1は短軸6m、長軸24mの長方形の平面形をもつ。区画墓2も7m×25m以上と、平面形は長方形になりそうだ。

区画溝は掘削後、時間をかけて堆積したようで、最終的には8世紀に埋め戻されている。区画溝では層位を問わず径10～30cm程度の礫が出土し、場所によってその量に差が認められる。礫の由来は近隣の礫層であろう。区画溝の内側に設けられた墳丘に用いられていたものが、墳丘の崩落とともに転落した蓋然性が高い。ただ、礫が意図的に使用されたのか（例えば墳丘表面に設置など）、墳丘土内に混入されただけなのかは判断できない。区画溝には埋め戻されたものがあり、この点は区画内の分割が流動的であった可能性を示す。また、区画墓1では4基、区画墓2・3・4でもそれぞれ1基の主体部を確認した。主体部1～3からは緑色凝灰岩製管玉2点、同2～1からは水晶製小玉7点が出土した。水晶製小玉はサイズや穿孔方法から日本海沿岸の奈具岡遺跡（京都府）産とみられ、同地との関係を示唆する資料である。奈具岡遺跡に近接する奈具遺跡の台状墓は、丘陵尾根に築かれた「立体的な」墓であるが、平面形は長方形を示して複数の主体部をもち、この点に限れば太田原高州遺跡の区画墓群に類似するようにもみえる。

なお、京都府埋蔵文化財調査研究センターで水晶製小玉の資料調査を実施した。



第10図 遺跡位置図(1/25,000)



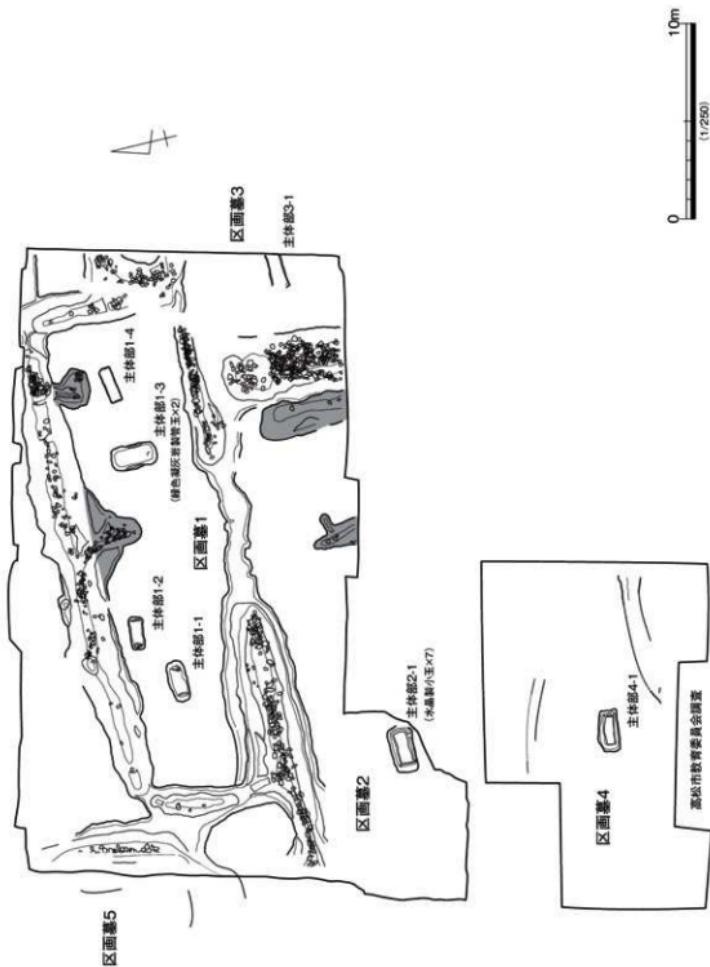
写真21 区画墓1（西端部）



写真22 水晶製小玉

ホトーンは埋められた区画

第11図 区画基群 平面図 (1/250)



多肥北原西遺跡

平成 23 年度（6 次調査）の調査区は、高松琴平電気鉄道株式会社琴平線の西側、鉄道及び市道を東西にはさんで、平成 22 年度の調査地に隣接する。

調査によって、近世、古代、弥生時代の3面の遺構面を確認した。古代の遺構については、平面において当該期のベース層との識別が非常に困難であったことから、一部弥生時代の遺構面まで掘り下げて、検出を行った。

近世の遺構は、掘立柱建物2棟、柵列、土坑などを確認した。18世紀から19世紀前葉の遺物が出土しており、当該期の屋敷地と考えられる。

遺構面上には旧耕作土層が水平堆積していることから、遺構面は一定程度削平を被っている可能性がある。遺物に多量の瓦類が含まれており、建物遺構として掘立柱建物以外に、礎石建ち建物が所在した可能性が想定されるが、削平により遺構を確認できなかった。また、多くの土坑は多量の人頭程度の礎が出土しており、屋敷地廃絶時に一度に埋め戻された可能性が考えられる。

古代の遺構は、掘立柱建物1棟と、3~4条の溝状遺構、土坑を確認した。建物SB01は、東西棟の側柱建物で、桁行4間(12.59m)、梁間1間以上を確認し、床面積は梁間2間とすると46.7m²の大型建物となる。桁方向の方位はN 85.0°Wと、概ね周辺の条里型地割りの方向と合致する。柱穴からの遺物の出土が限られるため詳細な時期は不詳だが、後述する溝群と重複せず建てられていることから、9世紀代を想定する。

溝群は調査区を横断するように東西に検出され、いずれも2・3次調査区（平成22年度）の延長と考えられる遺構である。すべての溝状遺構は、相互に切り合い関係を有しており、概ね南から北へ順に埋没・開削されたことが確認された。平成22年度の調査ではこれらの溝がほぼ平行して検出されたことから、道路状遺構の側溝の可能性が指摘されていたが、その根拠が乏しくなった。遺物には土師器、須恵器が出土しており、概ね9世紀代の埋没の可能性が想定される。そのほか、布目瓦片や鉄滓なども出土しており、南東約180mに位置する多肥廃寺との関係が考えられる。

弥生時代の遺構には、調査区南西から北東方向へ延長する流路状遺構がある。残存深0.2～0.4mと浅く、埋土は黒褐色粘土層の単層であり、水流による堆積層を認めなかったことから、低地帯としたほうがよいだろう。遺物は弥生土器片などが少量出土しており、前期後葉から中期前葉の埋没が想定される。



第12図 遺跡位置図 (1/25,000)

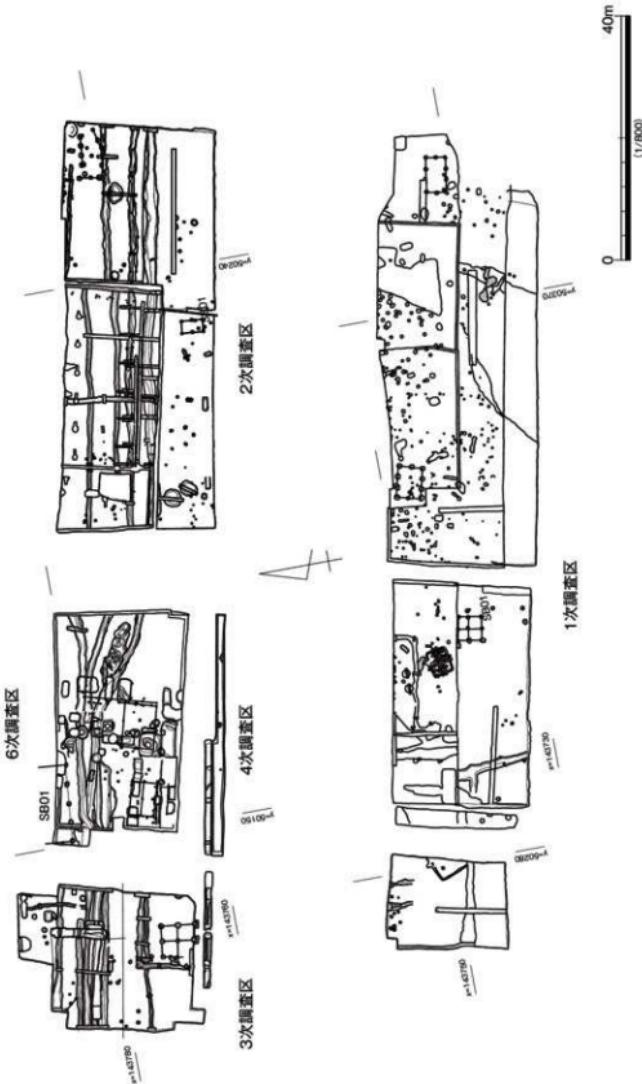


写真 23 切り合い関係のある溝群



写真 24 挖立柱建物 SB01

第13图 遗物配置图 (1/800)



北岸南遺跡

遺跡は、大東川と土器川に挟まれた、標高18.5m前後の平地部上に立地する。遺跡の南約400mには、推定南海道が東西走り、土器川や大東川を下れば瀬戸内海に通じる、交通の要所である。調査地の中央を東西に横断する市道により、北側をI区、南側をII区とし、さらに旧地割りや仮設水路などによって各々3小区に区分して調査を実施した。

なお、遺跡周辺には西に約27度偏した条里型地割りが広範に認められ、上記した市道は、その坪界線に合致する可能性がある。

調査によって、各調査区で4面の遺構面を確認した。第1遺構面は、中世初頭（12世紀後半～13世紀初頭）を中心とする。I・II区計5棟の掘立柱建物と耕地の区画溝を検出した。検出された遺構の主軸方向は、いずれも条里型地割りの方向と合致し、遅くとも中世初頭には、遺跡周辺に現状と同方向の地割りが施工されたことが確認された。

東西棟の側柱建物SB01は、四面庇の建物の可能性がある床面積約16.8m²の建物跡である。北西隅の柱穴より、ほぼ完形の土師質土器椀が、底部を上にして出土し、建物廃絶後の地鎮の可能性が考えられる。SB02は、梁間2間（4.0m）、桁行6間（13.2m）、床面積約51.7m²の規模を有する南北棟の側柱建物で、当該期としては県下で最大規模のクラスに位置する。本建物の柱穴からも、完形の土師質土器小皿が出土しており、建物廃絶後の地鎮遺物と考えられる。遺跡周辺の中世寺院として、三谷寺や鳴田



第14図 遺跡位置図 (1/25,000)

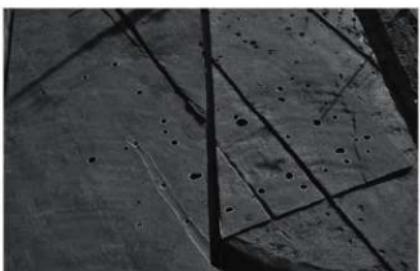


写真25 I区 SB01 全景



写真26 I区 SB02 全景

寺などが資料から確認でき、本建物群の居住者として、こうした中世寺院の檀越などの有力者も候補と考えられる。

当該期の遺構は、南北約65mをその範囲とする。その外側には柱穴等はまったく確認されず、溝等による明確な表示施設は確認できなかったが、上記した範囲が屋敷地の南北長をほぼ示しているとみてよい。しかしながら、屋敷地のほぼ中央に条里型地割りの坪界が位置し、屋敷地が二分されていたのか、条里型地割りと関係なく屋敷地が設定されていたのかは、周辺地の調査を待たなければ判断できない。また、建物遺構以外には、屋敷地を構成する土坑や溝状遺構などは確認されず、遺構面の削平を考慮しても、なお特殊な状況を想定する必要があろう。



写真27 I区SB02地鎮遺構



写真28 Ib区2面SD06・07全景

第2遺構面は、古墳時代から古代を中心とする遺構面と考えられる。後述する第3遺構面の包含層を耕土とする耕作痕と、溝状遺構を検出した。鋤溝群は調査区全域で確認され、その方向はN 23.9°Eと、条里型地割りの方向とは明らかに斜交する。時期的に条里型地割り施工以前に遡る可能性があるが、残念ながら出土遺物が乏しく、詳細な時期を特定するまでには至っていない。

溝状遺構SD20は、II区を東西に横断して検出され、その流路方向はほぼ正方位を呈する。遺跡の南約1.6kmには、白鳳期に創建されたと考えられる法勧寺があり、その周辺では正方位の地割りが現状で確認され、同方位の地割りが白鳳期に遡る可能性が指摘されている。SD20の検出により、正方位の地割りがより広範囲に施工されていた可能性も想定され、法勧寺との関係など、重要な資料となろう。なお、遺跡周辺は、上記したように中世初頭までには、現状の条里型地割りへと改変されたと考えられる。

第3遺構面は、弥生時代後期後半から終末期を中心とする遺構面で、多数の溝状遺構を検出した。SD06は、I区を東西に横断して検出された溝状遺構で、幅約1.2m、残存深約0.7m、断面V字状を呈する基幹水路と考えられる。埋土の堆積状況から、二度以上の改修の可能性が考えられた。流路方向より、大東川より取水し、遺跡西側の埋没旧河道へ排水していたと考えられ、延長約500mが復元される。出土遺物は乏しく、おそらくは集落域からはやや離れていたことが想像される。



写真 29 II区全景

その他各調査区で、出土遺物や埋土などから、SD06とほぼ同時期に機能していたと考えられる数条の溝状遺構を検出している。いずれもSD06の支線となる水路と考えられ、遺跡周辺が耕地として広範囲に開発されていた可能性を示唆し、重複して検出された溝状遺構などから、埋没と開削を繰り返して、比較的長期間維持されていた可能性がある。

第4遺構面は、縄文時代を中心とする遺構面と考えられる。第3遺構面のベース層である黄褐色系シルト層中より、サヌカイト製石錐やスクレイバーを含む、11点の石器が出土した。遺構は確認できなかったが、周辺に当該期の遺跡が所在する可能性が想定される。また、土器が出土しておらず、詳細な時期については今後の検討課題である。

なお、調査期間中には、地元の方々を対象とした説明会を開催し、県内外より多数の方が参加された。さらに地元小・中学校の児童・生徒を対象に、発掘体験やサヌカイトを利用した体験学習などを実施した。

2. 普及・啓発事業

1 展示

(1) 香川県埋蔵文化財センターでの展示

タイトル	場所	会期
遺跡・遺物からみた香川の歴史	第1展示室	4月1日～9月20日 12月20日～3月31日
続・発掘へんろ～四国の古墳時代～	第1展示室	9月23日～12月18日
讃岐国府跡を探る2 ～平成22年度の調査～	第2展示室	4月1日～5月6日
弥生時代の大集落	第2展示室	5月16日～7月8日
夏休み子どもミュージアム あ、古墳へ行ってみよう。	第2展示室	7月16日～8月31日
今一度、前田東・中村遺跡を考える	第2展示室	9月14日～12月28日
讃岐国府跡を探る3 ～平成23年度の調査～	第2展示室	1月16日～5月11日

第9表 展示一覧

(単位：人)

大人	子ども	計	団体									合計
			団体数				計	構成員数				
一般	高校生	小・中学生	幼稚園	一般	高校生	小・中学生		幼稚園	計			
2,173	286	2,459	24	0	10	0	34	756	0	650	0	1,406 3,865

第10表 入館者数一覧

(2) 香川県埋蔵文化財センター以外の施設での展示

タイトル	場所	会期	観覧者数(人)
讃岐国府跡を探る2 ～平成22年度の調査～	高松市讃岐国分寺跡資料館	5月17日～6月26日	407
讃岐国府跡を探る2 ～平成22年度の調査～	まんのう町琴南ふるさと資料館	7月9日～9月25日	91
讃岐国府跡探索事業展示	水のフェスティバル in 府中湖	10月2日	7,000
讃岐国府跡を探る2 ～平成22年度の調査～	坂出市郷土資料館	11月1日～12月4日	775
讃岐国府跡 探索中！	香川銀行坂出支店	12月6日～1月13日	-
香川県立図書館・文書館 の地下の遺跡	香川県立文書館	1月17日～3月11日	1,174
讃岐国府跡を探る2 ～平成22年度の調査～	東かがわ市歴史民俗資料館	3月17日～5月7日	113
四国地区埋蔵文化財センター巡回展 続・発掘へんろ～四国の古墳時代～	松山市考古館 高知県埋蔵文化財センター	4月29日～6月19日 7月1日～9月11日	2,169 1,518
	徳島県立埋蔵文化財総合センター	1月7日～3月18日	1,599
	合計		14,846

第11表 センター外展示一覧

2 現地説明会・地元説明会

内容		実施日	対象	見学者数(人)
1	上東原遺跡現地説明会	6月4日	一般	160
2	旧練兵場遺跡現地説明会	6月11日	一般	30
3	上東原遺跡現地説明会	8月2日	一般	70
4	北岸南遺跡地元説明会	11月15日	小学生	123
5	城泉遺跡現地説明会	11月19日	一般	11
6	北岸南遺跡現地説明会	11月26日	一般	61
7	太田原高州遺跡現地説明会	12月10日	一般	218
8	讃岐国府跡地元説明会	1月21日	地元	60
9	讃岐国府跡現地説明会	1月21日	一般	90
10	城泉遺跡現地説明会	2月25日	一般	60
11	讃岐国府跡探索事業報告会	3月10日	一般	120
12	讃岐国府跡探索事業報告会	3月17日	一般	80
		合計		1,083

第12表 現地説明会・地元説明会一覧

3 講師の派遣

(1) 体験講座など

依頼者	実施日	場所	内容	対象	人数(人)
1 宇多津町保健福祉課	6月8日	キッズプラザうたづ	土器づくり	小学生	50
2 亀阜地区民生委員児童委員協議会	6月12日	高松市立亀阜小学校	勾玉づくり	小学生	38
3 坂出市西大浜南子ども会	7月2日	西大浜南公園内芝生広場	勾玉づくり	小学生	14
4 高松市香南歴史民俗郷土館	7月24日	高松市香南歴史民俗郷土館	勾玉づくり	小学生	25
5 坂出市加茂校区子ども会	7月30日	坂出市加茂出張所	ガラス玉づくり	小学生	18
6 坂出市府中子供会	7月31日	香川県埋蔵文化財センター	勾玉づくり	小学生	80
7 JA香川 養水支部	8月3日	水主コミュニティセンター	勾玉づくり	親子	94
8 高松市香南歴史民俗郷土館	8月6日	高松市香南歴史民俗郷土館	土笛づくり	小学生	23
9 東植田コミュニティ	8月17日	高松市東植田公民館	勾玉づくり	小学生	16
10 廃治地区青少年健全育成連絡協議会	8月20日	廃治・観光交流館	勾玉づくり	小学生	7
11 香川県立盲学校	8月27日	香川県立盲学校	土器づくり	小学生	15
12 高松町子ども会	8月29日	高松町子ども会	勾玉づくり	小学生	6
13 坂出市教育委員会	11月12日	坂出市中央公民館	勾玉づくり	小学生	16
14 香南歴史民俗郷土館	2月4日	高松市香南歴史民俗郷土館	ガラス玉づくり	親子	14
15 高松市石の民俗資料館	2月18日	高松市石の民俗資料館	ガラス玉づくり	親子	20
		合計			436

第13表 体験講座への講師派遣一覧

(2) 学校

学校名	実施日	内容	対象	見学者数(人)
1 丸亀市立城北小学校	5月31日	出前授業	6年生	66
2 高松市立香南小学校	7月9日	勾玉づくり	6年生親子	100
3 高松市立木太小学校	7月12日	出前授業	3年生	90
4 高松市立牟礼南小学校	9月16日	土器焼き	6年生	36
5 観音寺市立常盤小学校	10月13日	勾玉づくり	6年生	27
6 観音寺市立常盤小学校	10月20日	勾玉づくり	6年生	28
7 東かがわ市立磐水小学校	1月28日	勾玉づくり	6年生	46
合 計				393

第14表 学校への講師派遣一覧

(3) その他

依頼者	実施日	内容
1 さぬき市文化財保護協会	5月7日	講演
2 三豊市財田町公民館	5月17日	講演
3 まんのう町文化財保護協会琴南支部	6月4日	講演
4 国際ロータリー第2670地区高松南ロータリークラブ	6月8日	講演
5 高松市讃岐国分寺跡資料館友の会	6月9日	講演
6 三豊市財田町公民館	6月9日	遺跡案内
7 日本金機構 高松西年金事務所	6月21日	講演
8 高松市老人クラブ連合会	7月28日	講演
9 丸亀市郷土史学習クラブ	8月13日	講演
10 公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター	9月10日	講演
11 高松市讃岐国分寺跡資料館	10月22日	講演
12 坂出市府中老人クラブ連合会	11月10日	講演
13 一ノ谷郷土史研究会	12月8日	資料解説
14 公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター	2月5日	講演
15 東かがわ市教育委員会	3月24日	講演

第15表 講演等への講師派遣一覧

4 坂出市立府中小学校との連携授業（よろこび学習）

回	実施日	場所	内容	対象	人数(人)
1	4月22日	埋蔵文化財センター	施設見学	6年生	52
2	6月3日	讃岐国府跡周辺	遺跡見学	6年生	52
3	6月10日	府中小学校	授業（旧石器～縄文）	6年生	52
4	6月17日	府中小学校、新宮古墳	授業（弥生、府中の遺跡）	6年生	52
5	7月8日	府中小学校	土器づくり	6年生	52
6	10月20日	府中小学校	土器焼き	6年生	52
7	12月12日	府中小学校	土器炊飯	6年生	52
8	1月18日	讃岐国府跡	遺跡見学	5・6年生	94
合計					458

第16表 坂出市立府中小学校との連携事業一覧

5 夏休み子どもミュージアム

7月16日～8月31日に夏休み子どもミュージアムを行った。

実施日	タイトル	講師	人数(人)
7月16日～8月31日	あ、古墳へいってみよう。	展示	562
7月16日～8月31日	遺跡の自由研究サポートデスク	自由研究のアドバイス	—
7月19日	あ、古代をたいけんしてみよう。	分銅形ベンダントづくり、ガラス玉づくり	8
8月2日	あ、発掘してみよう。	発掘体験	13
8月10日	あ、古墳を見てみよう。	古墳の見学	10
8月19日	讃岐国府ジユニアミステリーハンター	讃岐国府跡の探索	5

第17表 夏休み子どもミュージアム実施事業一覧

6 考古学講座

専門職員が講師を務める考古学講座を8回開催した。

回	実施日	タイトル	講師	人数(人)
1	6月19日	旧練兵場遺跡周辺の景観	木下晴一	33
2	7月3日	瀬戸内を行き交う人々 ～善通寺市・旧練兵場遺跡の調査成果から～	藏本晋司	14
3	9月24日	古墳から見た渡来人の軌跡	信里芳紀	37
4	10月22日	古墳時代の生活様式の変化	山下平重	35
5	11月5日	鏡から見た讃岐の古墳時代	森 格也	32
6	12月17日	讃岐国の古代南海道	西村尋文	38
7	1月28日	坂出市林田町の地形と開発	森下友子	44
8	2月11日	讃岐の中心地を考える～国府、守護所、そして城下町～	佐藤竜馬	60
合 計				293

第18表 考古学講座一覧

7 文化ボランティア活動

文化ボランティアは、事業の記録撮影や普及事業の補助などを行った。10名が登録し、13回、延べ23名が活動に参加した。

8 四国新聞への連載

四国新聞に「古からのメッセージ さぬき歴史教室⑨」として、計50回の連載を行った。讃岐国府跡探索事業に関連した内容「讃岐国府推定地の調査」(12回)、「讃岐国府の時代の遺跡」(15回)、「綾川流域の遺跡をゆく」(11回)、「南海道を歩く」(12回)で構成した。

9 資料の貸出・利用

区分	学校・大学	研究会・同好会	教育委員会・博物館	出版社・新聞社	個人・他	合計
遺物	5	0	13	0	17	35
写真・パネル	0	0	19	4	2	25
レプリカ・模型	0	0	0	0	0	0
合計	5	0	32	4	19	60

第19表 資料貸出・利用一覧（数字は件数）

10 職場体験学習・インターンシップ

学校名		期間	内容	人数（人）
1	高松市立香東中学校	9月26日～9月30日	職場体験学習	6
2	坂出市立坂出中学校	11月15日～17日	職場体験学習	4
3	坂出市立白峰中学校	12月6日～8日	職場体験学習	4
合 計				14

第20表 職場体験学習一覧

11 刊行物

- (1)『香川県埋蔵文化財センター年報 平成22年度』
- (2)『香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅳ』
- ・発刊にあたって一特集「讃岐国府を考える」
 - ・高橋利秋・古田博子「讃岐国府周辺における『大道』地名と南海道－ミステリーハンターの活動報告－」
 - ・西村尋文・佐藤竜馬「綾川河口域における開発史－古代から中世の林田郷周辺－」
 - ・森下友子「検地帳の古地名からみた坂出市林田町」
 - ・乗松真也「『悪魚退治伝説』にみる阿野郡沿岸地域と福江の重要性」
 - ・住谷善慎・十河裕之・佐藤竜馬「讃岐国の位置と国府の立地を考える」
 - ・佐藤竜馬「讃岐国府周辺における土地利用形態－発掘調査の成果からの素描－」
 - ・木下晴一「微地形分類の視点と方法－坂出市川津町西部を例に－」
 - ・高橋徳・安藤みどり・佐藤竜馬「史料紹介『南海流浪記』洲崎寺本」
- (3)『いにしえの讃岐』70～73号
- (4)パンフレット『見えてきた讃岐国府跡』
- (5)讃岐国府探索マップ（改訂版）

12 ホームページ

ホームページ(<http://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>)の更新を随時行った。

トップページビュー数 28,154

3. 緊急雇用創出基金事業

学校及び地域等における出土品の活用推進事業

「学校及び地域等における出土品の活用推進事業」を直接雇用の形態により、平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日の期間、7 名の臨時職員を雇用して実施した。

作業内容としては、埋蔵文化財センターが保管している出土品のうち、未洗浄であったものの洗浄及び台帳整備、注記作業を行った。併せて過年度の讃岐国府跡関係の出土品の各種データ整理を行い、学校や地域への貸し出し、各種展示会への出展に対応できるようにした。そして現在埋蔵文化財センターで実施している「讃岐国府跡探索事業」の公開や地域への普及啓発にも活用できるようにした。



写真 30 出土品の洗浄作業



写真 31 出土品の洗浄作業

4. 讀岐国府跡探索事業

香川県が平成 20 年度に策定した「香川県文化芸術振興計画」の中で、「讀岐国府跡探索事業」は、「香川の特色ある文化芸術活動を活かした地域づくり」を目的とした「地域文化活性化事業」として、戦略的重點事業に位置付けられている。

この事業の趣旨は、ボランティア調査員とともに地名調査、地形調査、水利調査及び発掘調査を行うことにより、讀岐国府の所在地を特定して遺跡の実態を解明し、遺跡を活用して地域の活性化を図ることにある。

香川県埋蔵文化財センターでは、平成 21 年度から 4 カ年計画で同事業を開始した。

事業は、今年度も公募したボランティア調査員を主体に実施した。上半期は地形調査、地名調査及び水利調査等を、坂出市林田町をフィールドの対象地として行った。林田町は綾川の河口地帯で、讀岐国中の神社を合祀した総社が置かれた地であり、国府に係わる古代の港が推定されており、国府を巨視的に検討するうえで重要な地域でもある。地形調査では、綾川の氾濫による幾筋もの埋没した旧河川や、古代集落の占地に適した微高地の存在などを確認した。また、地名調査では、寺院、城跡、屋敷跡や近世以降の開墾が推定される地名などを確認した。

下半期は発掘調査を坂出市府中町本村地区と坂出市加茂町で実施した。坂出市府中町本村地区的調査では、飛鳥時代から奈良時代以降の掘立柱建物や、国府内の施設を区画していたと推定される平安時代の溝跡などを確認した。奈良時代以降の建物跡に係わる遺構や平安時代の区画溝などは、国府の時代と符号するため、讀岐国府を構成する一施設を確認した可能性が高い。出土遺物では奈良時代から平安時代の多量の瓦、塼、当時の役人が身に着けていた石帶などが出土した。出土した多量の瓦は、付近に国府を構成する瓦葺の施設が所在し、石帶は国府に勤務する役人があつたことを示唆する。

過年度の調査では国府の時期と符号する遺構・遺物が少なかったが、今年度の調査においては、不明瞭であった国府を構成する施設の一部が明らかになり、大きな成果を得ることができた。

また、讀岐国府跡をはじめとする周辺の遺跡を活用した普及・広報活動等については、調査の進捗に合わせて隨時実施した。以下に実績を示す。

①ボランティア活動

登録者数 38 人

活動延べ員数 733 人

②地域との交流

説明会・学習会 6月8日、11月10日、1月21日 245 人

展示「第13回 水のフェスティバル in 府中湖」10月2日 7000 人

展示「讀岐国府を探る2」坂出市郷土資料館 11月1日～12月4日 775 人

写真展「讃岐国府 探索中！」香川銀行坂出支店 12月5日～1月13日

③情報発信

ホームページへの記事記載	56回
情報誌「いにしえの讃岐への記事記載」	4回
新聞への連載記事記載	50回
地元ケーブルテレビへの記事記載	6回
県庁バナー掲載	2回
NHK出演	2回
R S K出演	1回

④関連行事

まち歩き「古代の県庁『国府』はどこ？3 遺跡の専門家と歩く1,300年」

5月22日・6月5日 18人

まち歩き「天神さん夢の景色—道真の詩と歩く国府の里—」

10月9日・11月20日 21人

まち歩き「国司さまご一行、ご案内しますーあなたも新任国司にー」

11月19日・12月10日 12人

イベント「讃岐国府ジュニアミステリーハンター」 8月19日 5人

展示「讃岐国府を探る3－平成23年度の調査－」

1月16日～5月11日 年度末まで705人（会期末まで1063人）

展示「今一度、前田東・中村遺跡を考える」

9月14日～12月28日 1,491人

出張展示「讃岐国府を探る2」高松市讃岐国分寺跡資料館

5月17日～6月26日 407人

出張展示「讃岐国府を探る2」まんのう町琴南ふるさと資料館

7月9日～9月25日 91人

出張展示「讃岐国府を探る2」東かがわ市歴史民俗資料館

3月17日～5月7日 113人

考古学講座「讃岐国の古代南海道」 12月17日 38人

考古学講座「坂出市林田町の地形と開発」 1月28日 44人

考古学講座「讃岐の中心地を考える～国府、守護所、そして城下町～」

2月11日 60人

出張講座 さぬき市文化財保護協会総会 5月7日 85人

出張講座 まんのう町文化財保護協会琴南支部総会 6月4日 32人

出張講座	高松南ロータリークラブ 講演	6月 8日	60人
出張講座	社会保険委員会 講演	6月 21日	32人
出張講座	高松市老人大学 講師	7月 28日	160人
出張講座	丸亀郷土史学習クラブ 講師	8月 13日	13人
出張講座	アワコウコ楽ボランティア養成講座 講師	9月 10日	62人
県職員対象	発掘調査現地見学会	1月 14日	10人
県民対象	発掘調査現地説明会	1月 21日	90人
報告会「見えてきた讃岐国府」		3月 10日	120人
報告会「古代南海道と讃岐国府」		3月 17日	80人

⑤刊行物

パンフレット『見えてきた讃岐国府跡』	20,000部
『讃岐国府探索マップ』(改訂版)	5,000部
『香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅷ - 讃岐国府跡特集-』	300部

III 讃岐国府跡探索事業に伴う調査報告

香川県埋蔵文化財センターでは、平成21年度より4カ年の計画で讃岐国府跡探索事業に着手している。3年目にあたる平成23年度は、上半期に坂出市林田町を対象とした地形・水利・地名等の調査を実施し、下半期に坂出市府中町本村地区及び加茂町において発掘調査を実施した。

1. 地形調査

綾川下流域の平野の微地形・水利・地割等の情報収集と分析を目的とした地形調査は、林田町を対象として実施した。田畠一筆ごとの標高の測量や各水田の水掛かりの調査を行った。

標高の測量に基づく等高線図の作成の結果、現在の綾川と五色台山塊の間に複数の旧河道の痕跡と埋没している微高地の存在を推定することができた。調査結果を踏まえた綾川下流域全体の等高線図の作成は平成24年度に行い、旧地形の復元を行う予定である。

水利調査は水田1筆ごとの取排水状況の調査と、広域な水利状況の調査を行った。現在では林田町の大部分の水田は府中ダムを水源とする統合用水路から取水する各用水路（氏部用水・今井用水・総社用水・濱用水・西梶用水・郷佐古用水）によって灌漑される。この統合用水路は昭和41年に完成したが、それ以前は綾川から取水していた。現在は新聞・与北用水だけが綾川から取水する。

現地で各用水路網を調べ、灌漑範囲をまとめたのが第15図である。林田町の南東部は条里地割が広がるが、この付近は主として、氏部井口用水から灌漑される。また、地割りが乱れ、微高地の存在が推定される林田町中部は今井用水からの灌漑、今井用水の灌漑範囲の北側は総社用水、西側は西梶用水の灌漑範囲である。これらの地域の北側は濱用水、新聞・与北用水の灌漑範囲で、このあたりは地名調査によって江戸時代半ば頃開発されたことがわかったので、濱用



写真32 水利調査風景

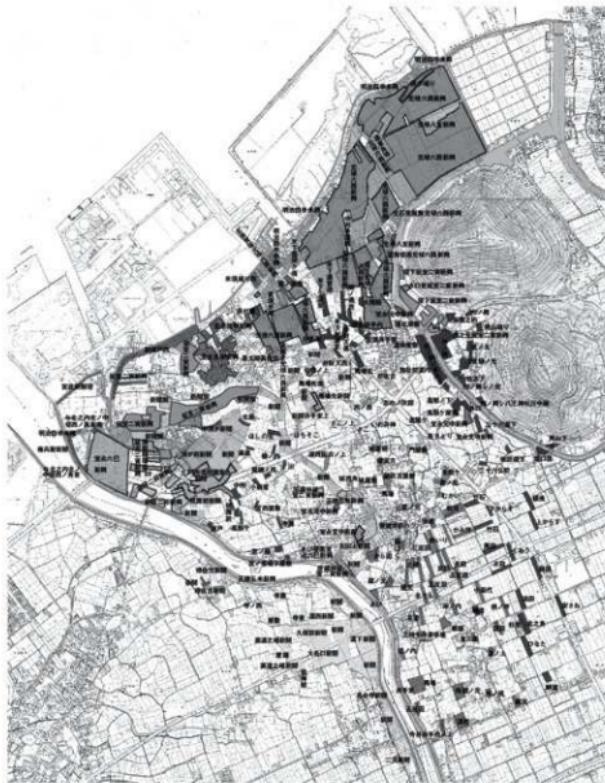


水、新開・与北用水の開設も江戸時代半ば頃であると考えられる。

鎌田共済会郷土博物館所蔵の『阿野郡北絵図』には林田町各用水路が描かれている。この絵図は江戸時代末に作成されたものを昭和初期に写したものである。現在の坂出市北部を描いており、道や用水路が描かれている。若干の違いがあるもののこの絵図に描かれた用水路と現在の用水路を比較すると、ほぼ一致している。このことから、現在の林田町の主な用水路は江戸時代末には完成していたことがわかる。また、氏部・今井・総社・西梶用水の4本の用水路は江戸時代以前から存在していたと考えられるが、開設の時期等については今後の検討課題である。

2. 地名調査

歴史的な地名・伝承などを採取することから、地域の歴史を考察すること目的とした地名調



第16図 林田町の古地名

査も、林田町を対象として行った。林田町には江戸時代の検地帳が保管されているが、これらの検地帳の中には、田畠の呼び名などの古地名が記されているものがあった。これらの古地名を解読して、古地名の現地比定を行うとともに、現地での聞き取り調査を行った。

調査の結果、江戸時代より前に遡る可能性のある古地名は数少ないことがわかった。この中で平安時代に遡る可能性のある古地名に「長命寺新開」がある。「新開」は開発を示しているが、「長命寺」は保元の乱（1157年）に敗れ、讃岐に配流された崇徳上皇が過ごしたという伝承をもつ寺院名である。「長命寺新開」は綾川西岸にある。この地名が付けられたのは周囲の開発年代から考えると、江戸時代の半ば頃であると推定されるが、この付近に長命寺が存在したという伝承がこの頃あったことがわかる。また、林田町北東部にある惣社神社と、林田町北西部にある八坂神社付近を結ぶラインの北側には「元禄六酉新興」・「宝永元申新興」・「延宝二寅新興」・「宝永六巳新興」などの年紀の入る古地名が数多くみられる。年紀は田畠が開発され、検地された時期を表すと考えられ、このあたりは江戸時代の前半から半ば頃に開発され、耕地化されたことがわかった。耕地化される以前のこの付近の様子を表した江戸時代の文献に「海上湊之記」がある。これは寛文7年（1667）幕府の海辺巡檢使高林又兵衛の視察記で、この中に林田の海岸部には干潟が広がっていたことが記されている。これらのことから、地名調査の結果、元禄年間（1688～1703）以前の林田町北部は干潟であったことがわかった。

3. 発掘調査

事業を開始して3年目となる今年度は、周知の埋蔵文化財包蔵地である坂出市府中町の讃岐国府跡の調査を第29次調査として行った。また、平成22年度の加茂町の地形調査により、綾川から分岐して雄山南西麓に向かう幅20～30m、南北1km以上連続する周囲より一段低い地形が確認された。その地形は周辺の条里地割の方向に類似しており、可能性として国府と沿岸部の港を繋ぐ運河の存在が想定されていた。そのため、運河の有無及びその時期や構造を確認すること目的に坂出市加茂町において、小規模なトレチ調査を行った。



第17図 調査位置図 (1/25,000)

(1) 坂出市府中町の調査（第29次調査）

讃岐国司庁址碑の、西方と南方の5地点(29-1~5区)で調査を行った。調査地の地目は全て水田である。

29-3区の遺構・遺物

讃岐国司庁址碑の南約30mに設定した29-3区では、平面形隅丸方形や円形の柱穴約40個と、古代～中世の溝状遺構を数条検出した。隅丸方形の柱穴は1辺0.4~1.0mを測り約30基検出した。その隅丸方形の柱穴を主軸方位で分ければ①正方位を示す柱穴、②周辺地域に施行されている条里地割(北から24°西方位)の方位に合致した柱穴に分けられる。

正方位の柱穴からは掘立柱建物SB01を復元した。条里地割方位の柱穴の建物については、小範囲の調査区のため建物復元には至っていないが、その状況から推定して、周辺に建物跡が所在する可能性が高い。

SB01は正方位に向きを揃えた東西棟の建物で、梁間3間(5m)×桁行7間(12m)、床面積60m²を測る大型の建物跡である。出土遺物は少なく詳細な時期決定には問題を残しているが、この建物は県内でも有数の規模の古代の建物で、一般の住居と捉えるより公的な施設の一建物と考えられる。

29-1・2区遺構・遺物

29-1・2区は讃岐国司庁址碑の西及び南東の約40~50m、概ね条里地割の東西方向に設定した調査区である。両区からは奈良時代の溝状遺構や、平安時代頃の区画溝、構列、柱穴、溝状遺構、整地層、中世の包含層などを検出した。

平安時代中期の遺構としては、29-1・2区の西端部で、南北に直線状に延びる10世紀前半頃に掘削された溝跡SD01を確認した。断面は浅いU字状を呈し、幅1.7m、深さ0.25m、主軸方位はN9°Wを測る。検出面周辺には古代の瓦が多量に出土しており、埋土中にも一定



写真33 SB01



写真34 SD01と整地層

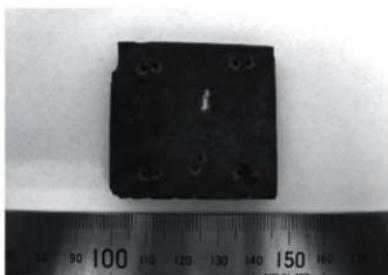


写真35 石帶(巡方)

量含んでいる。これらの遺構・遺物は国府の時期とも符合するため、国府内の一施設の西辺を画した区画溝の可能性が高い。なお、この溝跡の西岸には版築状に硬く締まった整地層の東半部を確認している。状況から推定してこの整地層は、区画溝に伴う築地遺構の基壇部の可能性がある。

遺構面の上位には幅約 0.2 m を測る中世の遺物包含層が、29 - 1・2 区の遺構面上の全域に堆積していた。同層からは、多量の奈良時代から平安時代の瓦に加えて、埠、石帶（巡方）、儀礼用の白色土器片などが出土した。この包含層は室町時代ごろの開墾で形成された土層と考えられ、この土地開発により周辺に存在していたと推定される、古代の構造物の大部分は削平を受けたものと考えられる。

小結

29 - 3 区の建物は部分調査のため出土遺物が乏しく、時期を判断するのは困難であるが、県内の一般集落跡や寺院跡及び国府の過年度の調査例を参考にした場合、条里地割方位の柱穴は、県内に同地割が施行された 7 世紀末から 8 世紀以降、正方位の建物については、条里地割を施行する前の 7 世紀後半頃の可能性があるが、焦点となるこの地域の条里地割の施行時期を示す確かな資料が少なく今後の課題になる。

正方位を向く大型建物 SB01 は先述したように、公的な施設の一建物と考えられる。この建物の性格については幾つかの候補が考えられるが、その時期や付属する施設等を含めた施設の構造などが解明された後でないと判断できない。条里地割方位の柱穴については、その検出状況から、周辺に建物が所在していることは間違いかろう。時期的には、おそらく国府の時期と符号しているものと考えられるため、これらの柱穴は広い意味で国府を構成する施設の一つである可能性が高い。

29 - 1・2 区では、平安時代以降の区画溝と周辺から出土した多量の瓦や石帶などの遺物から、付近に区画溝をともなう国府の一施設と考えられる瓦葺の建物や国府に勤務する役人がいたことを示唆するものである。

なお、10月 28・29 日、1 月 19 日に島根大学法文学部大橋泰夫教授を招聘し、調査指導を仰いだ。各地で行われた国府の調査方法とその成果や、29 - 3 区で検出された掘立柱建物跡や柱穴跡の調査方法についての指導を得た。

(2) 坂出市加茂町の調査

調査地の地目は水田であり、東西の 2 箇に 2 本のトレンチを設定した。標高で



写真 36 1 区遺構検出状況

は、西側の水田の現地表面は東側の水田に比べ 0.6 m 程低い。東側の標高の高い調査区を 1 区、

西側の低い調査区を2区として調査を行った。

1区の調査前の現地表の標高は11m前後を測り、耕作土・床土直下で弥生時代の竪穴住居跡SH01と平安時代後期の溝SD01・02を確認した。SH01は西半部で平安時代の溝SD01・02と重複しており、住居の西半部は不明である。SH01は西辺の一部が検出されただけであるが、形状から方形住居の可能性がある。住居の床面上からは炭化材や焼土が多量に出土したため、焼失家屋と考えられる。出土遺物は少量で、弥生時代中期の土器片と石器が数点出土しただけで、詳細な時期については問題を残す。平安時代後期のSD01・02は南東から北西方向に延びる2条の溝跡で重複する。出土遺物としては須恵器・土師器などが少量出土した。

2区からは、2条の河川SR01・02が重複して検出された。両河川とも東岸は確認できたが、西岸部については調査区外に位置する。両河川は埋土の微妙な違いで二つの川に分けたが、本来は同じ川の可能性が高い。なお、SR01は地表下約1.0mまで掘り下げたが川底までは確認できなかった。

出土遺物としてはSR01の下位層から平安時代中期、上位層からは鎌倉時代の土器が出土したため、少なくとも平安時代中期頃から埋没が始まり鎌倉時代頃には埋没が終了していたものと考えられる。

小結

先述したように今回の調査は、運河の有無及び構造、時期などを確認することが目的であった。発掘調査の結果、2区では運河等の人为的な遺構は確認することはできず、平安時代中期前後から埋没を開始し鎌倉時代頃に埋没を終える河川跡を確認した。

限られた調査で速断できない点もあるが、この地域でみられる運河状の地形は、本来綾川から派生し北上する河川の河道にあたり、条里地割に向きを揃えた地形も河川が埋没した鎌倉時代前後の開発により、条里地割の方に揃えられた可能性が高い。

また、微高地の1区からは弥生時代の竪穴住居跡が確認された。この地点から南200mには弥生時代後期の樋本遺跡があり、この調査地と樋本遺跡は同じ微高地にあると推定されるが、のとく 樋本遺跡と今回の調査地が連続する遺跡である確証は得られないため、樋本遺跡とは区別し、地元の字名から「竹北遺跡」とした。



写真37 2区遺構検出状況

香川県埋蔵文化財センター年報

平成23年度

平成24年9月28日 発行

編集・発行 香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024

香川県坂出市府中町南谷5001番地の4

電話(0877)48-2191

FAX(0877)48-3249

印 刷 四国工業写真株式会社